

【中国での体験談】

所が変われば、品も変わっています。

今年の10月中旬に、OVTA(財団法人海外職業訓練協会)より江蘇省の日系会社への海外OJT業務に派遣されました。

この時期には、江蘇省を含む華東地区でも短い秋を迎えています。空気も爽やで、中国で最良の季節になります。

その折、2つの庶民文化に接する機会がありましたので、ご紹介いたします。

「30歳のお祝い会」と「100日宴席」です。「30歳のお祝い」とは論語にある「三十而立(三十二シテ立ツ)」に由来し、全国的に行われる行事らしく、父母の愛に感謝し、親戚一同、ご老人から赤ちゃんまで出席してお祝いしています。

ご挨拶のあとは、お決まりの宴会、私も一族に加えていただいて、楽しい食事を満喫しました。丁度、あの本場:上海蟹のシーズンで、食事の間、主人やご両親と長老風の方々も順次席を回られて、乾杯々々の連続でした。一族のお祝いなので、基本的に会社の関係者は呼んでいないと言われ、これもまた「中国流の仕来り」らしいと思えました。

文化大革命では「批林批孔」運動で徹底的な弾圧を受けた論語・孔子様です。しかし、最近、拝金主義への反省からか、見直されているとも聞いていました。確かに、庶民の生活の中には、しっかり根付いていると感じた「30歳のお祝い会」でした。

次に、「100日宴席」とは、赤ちゃんの**顔見世興行**になります。この習慣は、江蘇省や浙江省周辺の習慣らしく、赤ちゃん主体のため昼間の食事会になります。

こちらは若夫婦が、主人役で会社関係者を多数招待していました。でも赤ちゃんの顔見世の儀式はなく、卓々で飲食しながら大きな声でおしゃべりし、めいめいが楽しい時間を過ごしていました。赤ちゃんの方は見ると、おばあちゃんにしっかりダッコされて、お休み中でした。

この会は一族の会というよりは、友人との交わりを重視する「関係」中心のもののように感じました。最近では廃れた日本での「お食い初め」に相当するのでしょうか。

この二つの経験から、中国の方々が『人の関係』そして『食』をいかに大切にしているかを再度、実感できた気がします。

このような時、日本人は「お祝金は、いくら出そうか?」、「何を着て行こうか?」と頭を悩め、「言葉も通じないから呼んでくれなくても」等と考えるものですが、こんな弱気では異文化の方々と交流して、理解する事は難しいでしょう。

招待してくれた事は、友人として認めてくれたのだと素直に喜んで、参加して、相手の面子を立てるのだと認める事が重要になります。お祝いは気持ちであり、二義的であるように考えてください。それでもお祝金等を気にする方は、普段から相場情報を得ておけば良いでしょう。

着ていく物、これは普段着で充分です。ただ、若い女性は最近、衣服、化粧品への出費を惜しまない傾向があり、宴席が一層華やいで見えたのは、男性として楽しいものでした。

言葉の障壁から意思の疎通が不十分ですが、もう少しマシな会話が出来たらもっと楽しい一時が過ごせたに違いないと自らの能力不足を嘆いています。

そして、宴席の賑やかな雰囲気と中国の方々の明るい表情に発展する中国の若さと自信を感じた出来事でした。

(亀山 悟:記)

OVTA 国際アドバイザー
「OVTA-China メンバー」